

指定校番号	28048	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	林 真由美	生徒指導主事	新居 美保
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『平良っ子まつり』

取組のねらい 『自ら考え、行動し、みんなで伸びる平良っ子』

- ふれあいの場とする。
- 練習や準備を通して、表現力やかかわり合う力を育てる。
- 児童の自主的な活動意欲を高める。

取組の具体的内容 『進んで、かかわり合い、学び合い』

- 交流の場の設定
 - ・ 委員会による体験コーナー
異学年との交流（1～6年生）
 - ・ 来校された地域の方へのおもてなし（4年生）
- 児童が意欲的に活動し、自信をもてる場の設定
 - ・ 委員会活動に係る全校児童に向けての展示・発表・体験コーナー等担当での活躍
 - ・ 委員会コーナー参加の下学年の喜びや満足感
 - ・ 地域の方から頂いた温かい言葉
- 互いに学び合える場の設定（5・6年委員会活動，4年総合的な学習の時間）
 - ・ 話し合い活動の充実
 - ・ 準備での協力
 - ・ 本番での役割分担

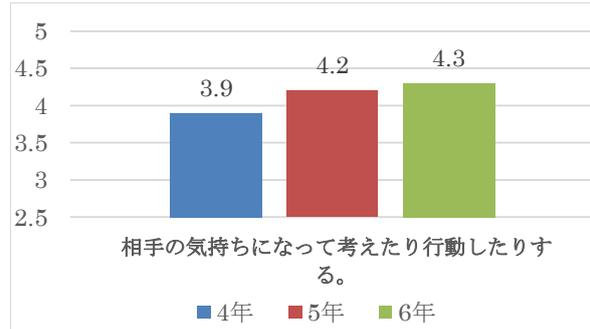
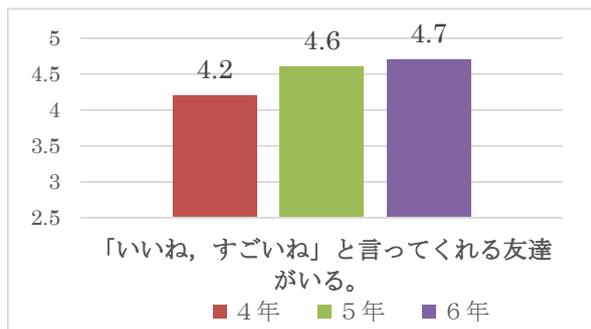
取組の課題・創意工夫 『生かす』

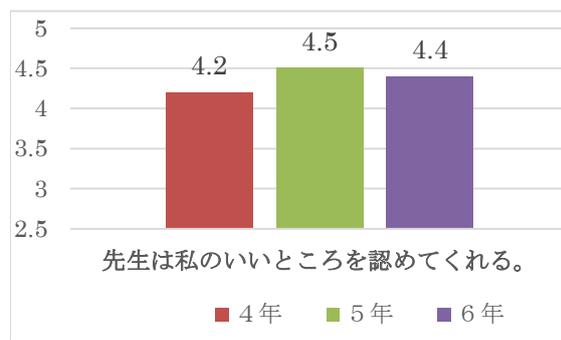
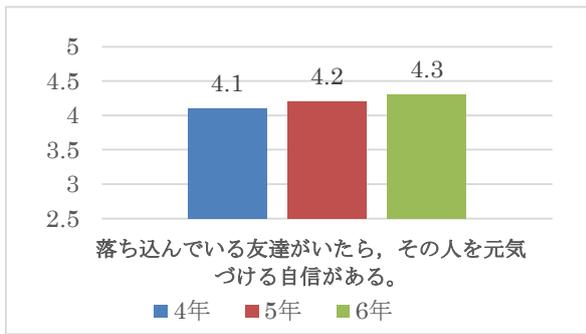
- 限られた時間
 - ・ ねらいの明確化，共通認識を図った「付けたい力」の設定
 - ・ 教職員の事前打ち合わせ，準備
 - ・ 児童の話し合い，準備時間の確保（5・6年委員会活動全3時間，4年総合的な学習の時間）
- 限られた材料
 - ・ 身近にあるもの，常時活動で使用するものの準備，収集
 - ・ 教職員の事前準備，打ち合わせ，時間
- 学びを生かす
 - ・ 計画に基づいた活動
 - ・ 教科での学習内容，方法を生かす。

取組の成果（効果） 『みんなと一緒になら、やればできる。』

第2回アセス（11月）の結果から、「他人（友達・教師）から自分は認められている。」と感じている児童が多いことが分かった。また、次のグラフから、「友達のことを考えて行動できる。」と感じている児童が学年が上がるごとに多くなっている。

これらの結果から、この取組を通して、自分のよさを認め、他者のことを考えながら行動できると感じている児童が多くなることが分かった。





<取組の様子>

「平良っ子まつり」
委員会コーナー

話し合いながら、準備を進めています。



4年生は、総合的な学習の時間に、「ボランティア」について学習しました。学んだことを生かして、休憩に来られた方に、「どうぞ。」とお茶のおもてなしをしています。



5,6年生が作り方や遊び方を教えます。アナウンス体験や、しおり・学校掲示物、そうじ道具などを作る工作、豆つかみや運動など多彩なコーナーがありました。



今後の展開『つなげる』

- ・ 児童が主体的に取り組める機会や場の設定を計画的に行い、次の学びにつなげる。
- ・ 異学年、地域・保護者の方との関わり合いの場を設定する。
- ・ 学びを深め、学びをつなげる話し合い活動の充実を図る。

他校へのアドバイス『きっかけづくり』

- ・ 児童が自分達で考えて活動しようとする機会を日常的に仕組んでいく。
- ・ ねらいを明確にし、児童の実態に即した活動計画を立てる。
- ・ 指導することを明確にした上で、児童に任せる活動を設定する。
これらを念頭に置いて、児童自らが「考えるきっかけ、動くきっかけ、関わるきっかけ」をつくり、主体的に活動する児童を育成していきたい。